

数学専攻入学試験 (2008.11.22. 10:00 – 12:00)

問題は全部で4問である。解答には、問題ごとに別々の答案用紙を用い、それぞれの答案用紙に受験番号、氏名、問題番号を記入すること。答案用紙、下書き用紙は終了後すべて提出し、持ち帰ってはならない。

問題1. 実数全体の集合 $X = \mathbb{R}$ の位相を次のように定める。 X の閉集合全体は、空集合、 X 自身、および X の有限部分集合全体から成るとする。このとき次の問いに答え、その理由を述べよ。

- (1) X は連結か？
- (2) X は Hausdorff 空間か？
- (3) X はコンパクトか？

問題2. 4次正方行列

$$N = \begin{pmatrix} 10 & 11/2 & -5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 20 & 10 & -10 & 0 \\ 10 & -25/6 & -11/2 & 0 \end{pmatrix}$$

に対して、線形写像 $f_k : \mathbb{R}^4 \rightarrow \mathbb{R}^4$, $k = 0, 1, 2, \dots$, を

$$f_k(v) = N^k v, \quad v = \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \\ v_3 \\ v_4 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^4,$$

で定め、その像 $W_k = \text{Im } f_k$ を考える。ただし N^0 は4次の単位行列とする。このとき次の問いに答えよ。

- (1) 行列 N^2 および N^4 を計算せよ。
- (2) \mathbb{R}^4 に属するベクトル v で、 $\{v, Nv, N^2v, N^3v\}$ が \mathbb{R}^4 の基底となるものが存在することを示せ。
- (3) 各 $k = 1, 2, 3, 4$ に対して、 $W_k \subset W_{k-1}$ かつ $W_k \neq W_{k-1}$ を示せ。

問題3. R を, $R > 2$ をみたす実数とする. 複素平面 \mathbb{C} において, 実軸上で $-R$ から R まで進み, そのあと R から $-R$ まで原点を中心とする半径 R の円の上半分に沿って進むことにより $-R$ に戻ってくる向き付けられた閉曲線を C_R とし

$$I = \int_{C_R} \frac{e^{iz}}{z^4 + 5z^2 + 4} dz,$$

$$J = \int_0^\infty \frac{\cos x}{x^4 + 5x^2 + 4} dx$$

とおく. ただし $i = \sqrt{-1}$ とする. このとき次の問いに答えよ.

- (1) 複素線積分 I を求めよ.
- (2) 広義積分 J を求めよ.

問題4. \mathbb{R}^2 の各点 (x, y) を $f(x, y) = (u(x, y), v(x, y)) \in \mathbb{R}^2$ に写す C^1 級写像 $f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ が, 任意の $(a, b) \in \mathbb{R}^2$ に対して, 条件

$$\max \{|u_x(a, b)|, |u_y(a, b)|, |v_x(a, b)|, |v_y(a, b)|\} \leq c$$

をみたすと仮定する. ただし c は点 (a, b) の選び方によらない正定数で $c < 1/2$ をみたすとする. また各 $(a, b) \in \mathbb{R}^2$ に対し, $\|(a, b)\| = \sqrt{a^2 + b^2}$ とおく. 以下の問いに答えよ.

- (1) $\gamma: [0, 1] \rightarrow \mathbb{R}^2$ を $\gamma(t) = (x(t), y(t))$, $t \in [0, 1]$, で表される 1 対 1 の C^1 級写像で, γ による区間 $[0, 1]$ の像が, 2 点 $\gamma(0)$, $\gamma(1)$ を結ぶ線分となっているものとする. このとき次を示せ.

$$|u(\gamma(1)) - u(\gamma(0))|$$

$$\leq \int_0^1 \sqrt{u_x(\gamma(t))^2 + u_y(\gamma(t))^2} \sqrt{x'(t)^2 + y'(t)^2} dt$$

- (2) 任意の $P, Q \in \mathbb{R}^2$ に対して $\|f(P) - f(Q)\| \leq 2c\|P - Q\|$ を示せ.
- (3) P_0 を \mathbb{R}^2 の 1 点とし, 点列 $\{P_n; n = 0, 1, 2, \dots\}$ を

$$P_{n+1} = f(P_n), \quad n = 0, 1, 2, \dots,$$

で定める. この点列が \mathbb{R}^2 の収束点列であることを示せ.